

## あいちの森とまちを繋ぐ「森と子ども 未来会議」学童保育—板倉の家— の活動

森と子ども未来会議 発起人

鈴木建一

### 1、自己紹介と活動を始めた動機

1961(昭和36)年生まれ57才。名古屋市に本社を置く物流会社の役員。祖父が刈谷市で製材・建築業を営んでいたが1代で廃業。建の字は父が中学校教師になり、孫に託した願いと確信するようになる。

小学生から20才で祖父が工務店と製材工場を廃業するまでは、薪割と風呂焚きは自分の仕事。街で薪風呂最後の世代。建築の道には進めず、最初の就職は奈良市の自転車部品メーカー。急激な円高で人員整理となって退職し今の会社に拾って頂いて32年。

50才頃祖父の建ててくれた家が傾きはじめ、真南には13階のマンションが建つと冬が寒くて耐えられなくなり移転建替えを決意。同時に祖父がやっていた地元材を使い、尚且つ冬暖かく夏は涼しい自然エネルギーを活かした家を考えるように。ご縁がご縁を結んで森の仲間が広がる。木こりから次第に木造建築へ、そして学童保育との出会い。

- ① 唐澤さんとの出会い 2013年11月 この若者は誰！ 人生を変える出会い
- ② 額田木の駅プロジェクト立上に参加 2015年2月⇒全国80木の駅で最大の規模へチェーンソーと軽トラで晩酌を！森と地域を元気に 間伐促進で地域通貨(森券)
- ③ 里山樹働隊設立初代隊員 2015年4月 ⇒ 2018年4月一般社団法人奏林舎へ発展
- ④ 岡崎木こり塾 2015年8月～12月基礎を学ぶ～あいちの木で家をつくる会～名古屋大学木造建築講座・木造都市研究会・伊勢三河湾流域ネットワーク～東海林さんとの出会い～日本板倉建築協会 福島被災地での仮設住宅＝本設同等以上の快適さ＝自分達でこういう家を造れそうだ！ まず6畳の小屋を建てよう・・・

### 2、「森と子ども 未来会議」の誕生

学生時代の2夏、アルバイトで緑区の学童保育指導員。楽しく且つ凄くしんどい経験。2017年3月労働組合との労使協議会で再び学童保育との出会い。新委員長は初の女性で学童保育指導員。懇親会で「鈴木さん休みは何やっているの？」・・運命の言葉。

緑学童は古民家を改造改築してきたが、名古屋市の学童保育は8割近くがプレハブ。土地は保護者が確保し、地主さんに固定資産税を免除、リース会社経由でプレハブを貸与という形が永年継続。いつでも退去できる為にプレハブしか選択肢が無いとの状況。板倉の家が日本古来の工法で、移築が簡単にでき、耐震・耐火認定。・・・「これだわ！」

子どもと保護者、地域と皆でつくろう学童保育施設！「森と子ども未来会議」発足。2017年6月から会議や勉強会を継続。林業、製材、設計、工務店、デザイナー、大工、家具、建材、ハウスメーカー、研究者、学童保育の保護者・協議会・指導員、新聞記者、有志の方々計約30名。板倉の課題である温熱環境も岐阜県森林アカデミー辻先生に学ぶ。

### 3、学童保育の家 ー板倉作りー 動画上映 6分

(株)ライフワークス 堀社長 会の趣旨に賛同して頂き動画の製作。

YouTube 視聴回数計500回 2018年3月配信開始、5月改訂版配信

学童保育の家-板倉作りー で検索再生できます

### 4、今後の展開

名古屋市の都市公園を活用で学童保育の建築計画。刈谷市の心の障がい者の就労支援施設の建築計画。両市で計6棟 2019年度内の建築を目指している。

全国学童保育連絡協議会でも2017年秋から紹介活動。問い合わせは埼玉、長野、静岡、沖縄等全国各地から。

「森と子ども 未来会議」は現在任意団体で緩やかな組織。実施設計、入札、契約、伐採、製材、建築などが始まると資金調達や運用等法人格が必要になるかもしれない。それぞれの会員が本業+αで参画し、ネットワークを拡げつつ事業化するのが課題。

森林業・林業の6次産業化＝地域産の木材で建築、リフォームや内装、建具家具、木のおもちゃや食器などを皆がつくる・使う。住宅や公共施設、商業施設を地域で生み出す。生活者が少しの勉強や体験で農業なら食の生産者にもなれる。林業も同じ。

また、地域＝河川流域の工務店が連携して、家造りのお客様を地域の森へ。素材となる森の木を感じ体感して伐採や製材体験をする。工務店が共同で天然乾燥材を仕入れて林業と連携していく。林業の再生復興をめざす。

更に木材として使いづらく山に切り捨てていた曲り材や節材(C、D材)を薪やチップ化して、一般の薪ストーブユーザーや愛知でも大変盛んな温室農家へ、チップボイラーとセットで流通できるプロジェクト立上げ予定。愛知中小企業家同友会のエネルギーシフト部会・10年後の愛知経済研究財団。

※太字の下線 各団体のホームページがありますのでご参照下さい

# 『森と子ども 未来会議』

## 設立趣意書

### “子どもと、保護者と、地域と、みんなで作ろう学童保育施設”

名称 森と子ども 未来会議 (任意団体)

#### 目的

- 1、地域と未来を担う子どもの集う 学童保育(放課後児童健全育成事業)における施設の生活環境を継続して改善する。  
学童保育を担う指導員の働く環境整備も同時に推進する。
- 2、全国各地の子どもに、全国各地の森から生まれる木の建物、家具などを身近に感じて、親しみ、自然との調和、持続的発展の大切さを共に学ぶ。  
子どもを通じて多世代のつながりを大切にし、自然との調和ある社会と経済の発展に寄与する。
- 3、愛知県土の4割、国土の7割を占める森林や水源の持続的保全是地域と日本の課題です。森林業・製材・建築・エネルギー・環境・インテリア・木工・デザイン・流通・メディア・行政・教育研究機関・各種団体や企業・個人、ボランティア等々の協力体制によって上記1と2の目的を実現する。

発足日 2017年10月1日

設立発起人メンバー・団体企業

25団体・企業、個人

#### 事業方針

1. すべての関係者が対等平等公平のなかで、会議の目的を推進する
2. 其々のポジションや役割を活かし、協力関係を深め、掛け算の力を出す。
3. 開かれた組織運営を基に、仲間を増やす。
4. 事業の長期継続を図る為、各メンバーが共同し経営の自立を目指す。

#### 事業計画

《初年度》 2017年10月1日～2018年9月30日

- ① 学童保育施設の設計提案書作成 2017年9月中  
複数の建築プラン、内装プラン 木質化・家具什器類  
パース画含めたパンフレット作成
- ② 県内自治体への要請 10月～11月  
建築・内装プラン各一つ以上の提案採択をめざす  
いくつまでできるかも検討 最大\_\_\_\_施設
- ③ 県内林業者・製材・建築・木工デザイン家具各者 8月～9月  
とのネットワーク造りと試作、見積
- ④ 学童保育施設の建築・木質化工事の準備と実施 2018年3月～9月

《2年度》 2018年10月～2019年9月

- ① の充実
- ② の要請と採択数拡大
- ③ 豊田市中核製材工場稼働 2018年7月を踏まえた連携  
ネットワークの拡大と深化・進化

④ 組織体の充実 法人化を行う 全国への仲間づくり

《3年度》 2019年10月～2020年9月

法人事業として定着

オリンピックを機会に国内・国際的な連携を深める

《4年度》 2020年10月～2021年9月

多様な活動。事業領域を拡げつつ 定着

《5年度》 2021年10月～2022年9月

名古屋市のプレハブ学童保育施設の部分改善を\_\_\_\_%

建築建替えの\_\_\_\_%

10年後には、ほぼ全ての県内学童保育が良好な生活環境になることをめざす。

地域の防災拠点・災害時弱者に優しい救援施設としても定着・拡大を図る。

全国で、山から街へ、板倉の家—学童保育施設—の普及をめざす中で、少し、

面白い緩やかなネットワークを創る。当面任意団体として将来法人化を検討。